

— 広 告 —



増田 圭亮 (ますたけいすけ)
金沢工業大学大学院工学研究科
情報工学専攻
博士前期課程二年
石川県 北陸学院高等学校出身

コロナ禍で生き方見つめ、 刻んだ一歩が大きな道に。

自宅から大学に通い、放課後は仲間と同好会の時間を過ごし、アルバイトで小遣いを稼ぐ。他の学生と同様、増田さんのそんな日常を大きく変えたのが、新型コロナウイルス感染症の流行だった。

KITでは二〇二〇年四月、国の緊急事態宣言に合わせて、キャンパスへの学生の立ち入りを禁止し、授業を全面、ネットに切り替え

た。二年次を迎えた増田さんは、対面式のように学生同士で質問したり教え合ったりできる環境をと、クラスメートとオンラインチャットシステムを作った。

かねてから興味があった株式投資にも挑戦した。会社四季報や日経電子版に目を通し、企業業績や新製品情報を分析して銘柄を選び、望外のリターンを得た。二年次の

冬休み、この経験を元に仮想通貨の自動売買システムの開発に取り組んだ。コロナ禍に翻弄され、自身の生き方をゆつくり見詰め直す中で、「もつと能動的な人間に変わらなければ」と心機一転、踏み出した一歩だった。

売買の最適なタイミングをコンピュータに判断させる要件をどう設定し、精度を高めていくか。そのため、いまま毎朝、売買の成績を検証し、ブラッシュアップを続ける。同時に、この開発を通して、データサイエンティストの重要性和将来性を目覚めた。

それを確信したのが、四年次に参加した産学協同のコーオペ教育プログラムである。民間企業でアンケートやチャットボットのデータを活用した顧客分析を担当し、「実務に携わったことで、課題解決の本質のようなものが理解でき、貴重な経験になりました」。

増田さんの妻は、この知の快

感を独り占めせず、学内に広げたことだ。大学の後押しもあり、コーオペ教育で学んだ先輩と昨年、KIT初のデータサイエンス系課外プロジェクト「Data Dreamers」を立ち上げた。既にメンバーは五十名を超え、彼を中心にデータ分析のスキル向上や企業との協働プログラムで実践力を鍛える。生成AIをテーマとする大学生向けハッカソンで今年一月、優勝を飾り、二四年度、これまでの実績が評価され、夢考房の新プロジェクトとしてスタートを切った。

取材をしながら、魯迅の短編小説「故郷」のラストがふとよみがえった。「元々、地上に道はない。歩く人が多くなれば、それが道になる」。増田さんの刻んだ小さな一歩が、いまKITで大きな道になろうとしている。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七-1
電話番号(076)248-1100

KIT
キャンパス
レポート 増田
文・杉村裕之